

実体経済の動向

◇生産、出荷とも大幅増加、在庫は微増

(生産——大幅増加)

2月の鉱工業生産(季節調整済み、前月比^(注)、速報)は、うるう年の影響もあり+3.9%と大幅増加を示した(前年同月比+12.3%)。

(注) 以下増減率は特に断わらない限り前月比または前期比(物価を除き季節調整済み)。

2月の生産を財別にみると、非耐久消費財が前月を下回る低い伸びとなったほかは、各財とも前月を大幅に上回る増加を示し、特に資本財輸送機械の著増が目立った。すなわち、資本財輸送機械は小型自動車、トラック、船舶等の輸出急増を主因に著増した。一般資本財は電力投資関連の発電機、産業用電機が減少したが、製造業設備投資関連の金属加工機械、繊維機械や合理化投資関連の電子計算機、事務用機器が増加したため、全体では前月に続きかなりの増加となった。耐久消費財もこれまで高い伸びを示してきた光学機械・同部品、時計が減少したものの、小型自動車、二輪

自動車が輸出の好調を映じて著増したほか、民生用電機(セパレート型エアコン、電気冷蔵庫)も大幅に増加したため、全体では5か月連続の増加となった。生産財も、石油製品(C重油、軽油)が減少したものの、鉄鋼素製品(銑鉄等)、プラスチック、アルミ圧延品、有機薬品(エチレン等)が増加したため、全体では5か月連続の増加となった。このほか建設財も、板ガラス等一部品目で減少したものの、セメント、土石製品(コンクリート管・パイプ)、建設用金属製品(アルミサッシ)など多くの品目が増加したことから、全体では3か月ぶりに増加した。この間非耐久消費財は、日用品(家庭用薄葉紙、合成洗剤、浴用石けん)がかなり増加したものの、灯油が大幅減となったほか、ニットおよび繊維二次製品も微増にとどまったため、全体では前月を下回る小幅増加にとどまった。

(出荷——大幅増加)

2月の出荷(速報)は、うるう年の影響もあり+4.0%と大幅増加を示した(前年同月比+11.3%)。

2月の出荷を財別にみると、生産同様、非耐久消費財を除き各財とも軒並み前月をかなり上回る高い伸びを示した。すなわち、資本財輸送機械は

鉱工業生産の動向

(季節調整済み、特殊分類別は前期(月)比増減(-)率・%)

	54年				54年			55年		
	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	12月	1月	2月	12月	1月	2月
鉱工業	128.5	131.6	134.2	137.7	138.1	139.8	145.2			
前期(月)比	1.8	2.4	2.0	2.6	-0.2	1.2	3.9			
前年同期(月)比	7.4	8.0	8.7	9.1	8.5	9.6	12.3			
投資財	1.9	1.6	2.8	3.5	-3.4	1.1	4.8			
資本財	1.3	2.6	3.9	3.5	-4.3	1.7	5.2			
同(輸送機械を除く)	2.6	1.9	2.5	3.5	-5.3	2.1	3.6			
輸送機械	-2.2	6.4	5.3	5.1	-1.6	2.3	9.8			
建設財	2.1	0.1	0.7	3.1	-1.4	-0.6	3.5			
消費財	1.4	2.9	2.8	2.4	1.1	2.7	2.2			
耐久消費財	2.0	5.3	7.4	3.4	4.2	0.5	3.8			
非耐久消費財	1.0	0.9	-0.2	1.7	-0.5	3.3	1.3			
生産財	2.4	2.5	0.8	2.1	1.1	1.0	3.4			

(注) 通産省調べ。55年2月は速報。
前年同期(月)比は原指数による。

鉱工業出荷の動向

(季節調整済み、特殊分類別は前期(月)比増減(-)率・%)

	54年				54年			55年		
	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	12月	1月	2月	12月	1月	2月
鉱工業	126.9	129.6	130.9	134.7	134.9	137.0	142.5			
前期(月)比	2.3	2.1	1.0	2.9	-0.1	1.6	4.0			
前年同期(月)比	6.7	7.8	7.5	8.6	8.1	9.0	11.3			
投資財	2.5	0.9	2.9	4.1	-1.4	-0.1	6.0			
資本財	3.0	-0.1	4.4	5.3	-2.9	0.6	6.3			
同(輸送機械を除く)	3.8	-1.0	4.5	5.2	-9.6	2.7	5.1			
輸送機械	1.0	3.9	2.5	6.5	12.2	-5.0	9.8			
建設財	0.8	2.2	1.2	1.7	1.2	-0.9	4.0			
消費財	2.8	3.3	0.1	2.3	0.4	4.7	4.0			
耐久消費財	3.0	6.8	3.2	3.8	4.6	2.3	5.5			
非耐久消費財	2.4	1.0	-2.4	1.9	-1.5	5.6	2.3			
生産財	2.3	2.1	0.2	2.4	0.5	1.3	3.1			

(注) 通産省調べ。55年2月は速報。
前年同期(月)比は原指数による。

小型自動車、トラック、船舶などが輸出著伸を主に因に急増したため、全体でも前月減少のあと著増した。一般資本財も電力投資関連の発電機、産業用電機が落ち込んだものの、製造業設備投資関連の金属加工機械、繊維機械や合理化投資関連の電子計算機などを中心に前月に続き大幅増加を示した。また耐久消費財も需要好調の小型自動車、カラーテレビ、民生用電機(電子レンジ、電気冷蔵庫)などを中心に3か月連続してかなりの増加となった。生産財も、銅地金(前月の輸出著増の反動)や板ガラス(流通筋の手当て一巡)などが減少したものの、内需堅調の冷間仕上鋼材、一般機械部品(軸受等)や、輸出急増の合繊長繊維・織物が高い伸びを示し、石化製品(エチレン、プラスチック)、ソーダ工業薬品(か性ソーダ)、合成ゴム、アルミ圧延品等では流通・ユーザー筋の手当てが進んだため、全体では5か月連続の増加となった。このほか建設財でも、鉄鋼(H形鋼、その他の形鋼)、セメント、アルミサッシ等で流通・ユーザー筋の在庫手当ての動きが見られ、かなり高い伸びを示した。この間、非耐久消費財は、日用品(家庭用薄葉紙、合成洗剤)がかなり増加したものの、石油製品(灯油、揮発油)、ニットおよび繊維二次製品が伸び悩んだため、全体では前月を下回る伸びとなった。

(在庫——微増)

2月の生産者製品在庫(速報)は+0.3%と小幅ながら6か月連続の増加となったが、在庫率(50年=100)は出荷の大幅増加を映じて78.7と前月(79.6)比やや低下した。

2月の在庫を財別にみると、生産財、建設財、非耐久消費財が減少した反面、一般資本財、資本財輸送機械、耐久消費財は前月に続き増加した。すなわち、一般資本財は産業用電機、電力・通信ケーブルなどが減少したものの、金属加工機械、土木建設機械、事務用機械などの増加から全体でも増勢を続けた。資本財輸送機械も、トラックが前月に続き増加し、小型自動車もメーカーの増産

鉱工業在庫の動向

(季節調整済み、特殊分類は前期(月)末比増減(-)率・%)

	54年 (期末)				54年			55年		
	3月	6月	9月	12月	12月	1月	2月	12月	1月	2月
鉱工業	102.2	100.2	102.7	105.8	105.8	106.0	106.3	0.1	0.2	0.3
前期(月)末比	0.1	-2.0	2.5	3.0	0.1	0.2	0.3			
前年同期(月)末比	-1.5	-2.3	1.0	3.6	3.6	2.9	3.6			
投資財	2.8	-1.9	-1.0	3.6	-0.5	1.8	0.6			
資本財	-0.1	2.3	0.4	2.9	-1.5	3.0	1.7			
同(輸送機械を除く)	3.2	0.2	-0.8	3.9	2.1	1.8	2.0			
輸送機械	-3.9	3.6	3.9	0.4	-6.0	5.2	2.5			
建設財	6.3	-6.4	-3.4	4.8	0.3	0.3	-0.5			
消費財	0.2	-4.6	4.7	10.9	3.2	0.1	0.7			
耐久消費財	6.0	-2.3	6.5	10.0	2.4	1.0	2.6			
非耐久消費財	-4.9	-6.2	4.2	9.6	2.5	-2.4	-0.4			
生産財	-1.9	-0.2	2.6	-2.0	-1.3	-0.4	-1.1			

(注) 通産省調べ。55年2月は速報。
前年同期(月)末比は原指数による。

から4か月ぶりに増加したため、全体では2か月連続の増加となった。耐久消費財は、セパレート型エアコンが4か月連続の増加を示し、小型自動車、民生用電機、暖かい房熱機器なども増加したため、全体では8か月連続の増加となった。

一方、生産財は石油製品(A・B重油)が増勢を続け、板紙も5か月ぶりに増加したものの、前月輸出船待ち在庫を中心に増加した鉄鋼が減少したほか、石化製品(有機薬品)、ソーダ工業薬品(か性ソーダ)、アルミ圧延品などが出荷好伸から減少したため、全体では4か月連続の減少となった。建設財も、セメント、鉄鋼(H形鋼、その他の形鋼)などが流通・ユーザー筋の手当て増を映じて大幅に減少したため5か月ぶりに減少した。非耐久消費財も石油製品(灯油、揮発油)が増加したものの、出荷好調の日用品(家庭用薄葉紙、合成洗剤)や天然色フィルムなどを中心に前月に続き減少した。

(設備投資——一般資本財出荷、民間建設工事受注はともに大幅増加)

2月の一般資本財出荷(速報)は+5.1%と前月(+2.7%)に続き大幅増加となった。品目別にみ

需要別機械受注・建設工事受注の推移

(季節調整済み、月平均、単位・億円)

	54年			54年	55年	
	4～6月	7～9月	10～12月	12月	1月	2月
	民需	5,291 (0.8)	4,973 (-6.0)	5,236 (5.3)	4,807 (-13.1)	6,018 (-25.2)
同(船舶・電力を除く)	4,000 (15.1)	3,602 (-9.9)	4,166 (15.7)	3,818 (-10.9)	4,502 (17.9)	4,177 (-7.2)
製造業	2,132 (25.3)	1,827 (-14.3)	2,258 (23.6)	2,056 (-7.2)	2,448 (19.1)	2,357 (-3.7)
非製造業	3,156 (-9.3)	3,148 (-0.2)	2,965 (-5.8)	2,719 (-16.9)	3,464 (27.4)	2,718 (-21.5)
同(船舶・電力を除く)	1,897 (7.0)	1,788 (-5.8)	1,930 (7.9)	1,774 (-14.6)	2,060 (16.1)	1,821 (-11.6)
建設工事受注(民間)	3,705 (17.1)	3,488 (-5.9)	3,532 (1.3)	3,852 (12.1)	4,489 (16.5)	4,799 (6.9)

(注) 機械受注は経済企画庁調べ。建設工事受注は建設省調べ(43社ベース)。カッコ内は前期(月)比増減(一)率(%)。

ると、電力投資関連の発電機、産業用電機が落ち込んだものの、製造業設備投資関連の金属加工機械、繊維機械、電動工具や合理化投資関連の電子計算機が増勢を持続したほか、前月減少のエレベータ、農業機械なども増加した。

また2月の機械受注(船舶、電力を除く民需)は前月著増(+17.9%)の反動から-7.2%の減少となったが、前年同月比では+22.0%と高水準を持続した。業種別にみると、製造業からの受注は、石油、紙パなどが増加したものの、昨年後半以降大幅増加を続けてきた自動車が増減したほか、鉄鋼、化学、食品も前月著増の反動から減少したため-3.7%と、前月著増(+19.1%)のあと小幅減少となった。また、非製造業(船舶、電力を除く)からの受注も、建設業が小幅ながら3か月連続の減少を示し、前月著増の農林漁業、その他非製造業も反動減となったため、-11.6%の減少となった(前月+16.1%)。なお電力からの受注は-21.5%と前月増加(+21.9%)のあと再び減少した。

また2月の建設工事受注額(民間分、速報)は+6.9%と4か月連続の増加を示し、前年同月比でも+44.9%と伸びを高めた。

◇2月の小売商況は堅調を持続

2月の全国百貨店売上高(通産省調べ、速報)は、

寒気の滞留から冬物衣料が続伸したほか、うるう年の影響もあって食料品、家具、家庭用品等も総じて高い伸びを続けたため、前月大幅増加(+3.7%)のあと+0.4%と底固く推移した(前年同月比では+11.2%と前月に続き2けたの伸び)。3月に入ってからも、春物衣料が例年に比べやや出遅れ気味ながら、食料品、家具、家庭用品等の堅調持続から全体ではまずまずの伸びを示した模様である。

3月の主要耐久消費財の販売状況を見ると、乗用車新車登録台数(軽を除く、速報)は、ディーラー筋が期末月とあって拡販に一段と注力したため、348千台(前年同月比+1.3%)と月間販売台数としては既往ピークを更新した(従来のピーク54/3月343千台)。また、家電製品も、カラーテレビ、VTR、ラジカセ、電子レンジ等を中心に好調な売行きを続けた。

◇商況の基調——小幅ながら続伸

3月の商品市況を見ると、非鉄(銅、鉛)、天然繊維(綿糸、羊毛糸)、砂糖等の海外関連品が反落したが、鋼材(形鋼、鋼板類)、合繊、石油化学製品、紙、石油製品(C重油、軽油)など主要品目が上伸を続け、全体としては小幅ながら続伸となった。

これは、①末端実需は天然繊維や公共投資関連(棒鋼、合板)など一部が不ぞえながら、鋼材(形鋼、鋼板類)、アルミ、紙等大方の品目では民需を中心に引続き好調である一方、メーカー側は総じて慎重な生産姿勢を続けていることから、需給地合いが堅調に推移していること、②こうした需給地合いを背景にメーカー側は原燃料コストの上昇を理由とした値上げを打出しており、これを映じて流通・ユーザー筋では先高感から前向きの在庫手当てを行ったこと(アルミ、段ボール原紙、塩ビ等)、③石油製品については、元売筋による第8次建値上げを控えてC重油等の市中相場が小幅続伸したこと、等によるもの。この間、海外関連品(銅、鉛、綿糸、羊毛糸、砂糖)は、国際的な金利の高騰や産地国のスト解決等を主因とする

卸売物価指数の推移

(前月(期)比騰落率・%)

	ウエイト	54年	55年	54年		55年		
		10~12月平均	1~3月平均	11月	12月	1月	2月	3月
総平均	1,000.0	4.3	6.5	1.5	1.8	2.1	2.6	2.0
食料品	140.9	0.9	2.3	0.9	0.6	0	1.8	1.2
非食料農林産物	18.9	3.0	8.4	2.3	2.1	2.8	4.1	1.3
繊維製品	62.9	1.6	2.2	0.3	0.1	0.7	1.6	0.8
製材・木製品	33.6	0.1	6.2	- 0.5	1.1	2.8	3.1	2.1
パルプ・紙・同製品	28.9	6.1	11.2	1.4	0.5	4.4	6.6	3.8
金属素材	12.6	16.8	13.3	8.7	3.0	4.4	8.2	- 5.2
鉄鋼	80.7	2.3	2.5	1.2	0.6	0.4	1.3	1.3
非鉄金属	26.1	15.0	23.5	2.4	5.5	14.3	7.8	- 4.8
金属製品	37.0	2.6	1.9	0.6	0.2	0.3	0.7	2.4
電気機器	73.3	0.8	0.6	0.4	0.2	0	0.2	0.4
輸送用機器	74.0	1.4	0.4	1.1	- 0.4	- 0.1	0.4	0.3
一般・精密機器	95.7	1.1	0.9	0.4	0.4	0.2	0.2	0.6
化学製品	91.1	5.3	5.3	1.2	0.7	1.8	2.4	2.5
石油・石炭・同製品	102.2	15.2	22.7	4.9	10.2	5.9	6.6	7.2
窯業製品	30.5	4.7	3.5	0.9	0.3	0.5	0.8	6.1
電力・ガス	25.5	4.8	6.2	1.7	1.8	2.6	1.8	1.5
雑品目	66.1	3.6	4.8	1.4	0.7	2.3	1.3	1.8
工業製品	816.4	3.4	5.1	0.8	1.4	1.8	2.0	2.0
大企業性製品	579.9	3.6	4.9	0.8	1.6	1.6	1.8	2.0
中小企業性製品	214.6	1.7	4.0	0.2	0.6	1.3	2.2	2.0
非工業製品	158.1	8.8	12.6	4.9	4.4	3.3	5.1	2.7
国内品	801.9	2.8	4.6	0.6	1.3	1.6	1.9	1.9
輸出品	94.2	6.1	2.8	3.6	0.2	- 0.5	2.0	1.7
輸入品	103.9	14.7	21.0	6.9	6.7	7.1	7.3	2.9

(注) 日本銀行調べ。

海外市況の大幅下落等を映じて軟化した。

(卸売物価——大幅統騰)

3月の卸売物価は+2.0%と前月(+2.6%)に続き大幅上昇となり、前年同月比でも+22.8%(前月+21.4%)と騰勢を強めた。

品目別には、輸入品が高値原油の入着や為替円安に伴い統伸したほか、国内品も需給引締りの中で原料コスト高の製品価格への転嫁が進行したため、石油製品、石油化学製品、窯業製品、食料品等が統騰した。この間、非鉄金属は海外市況の急落を映じて大幅に下落した。

(消費者物価——3月<東京都区部、速報>は食料品の値上り等から統伸)

3月の消費者物価(東京都区部、速報)は、季節商品(野菜)の反落や衣料品の値下りにもかかわらず、季節商品以外の食料品や雑費の上昇等が響いて前月比+0.5%と前月(同+0.5%)並みの上昇となった(前年同月比+7.2%)。

食料品の上昇は、パン、めん類、清酒等の米麦関連食品が消費者米麦価引上げ(2月)の影響から統伸したほか、鶏卵等も値上りしたことによるもの。また、その他の品目では、航空運賃やちり

消費者物価指数の推移

(前月(期)比騰落率・%)

	ウェイト	54年		55年			最近月の 前年同月比		
		10~12月 平均	1~3月 平均	1月	2月	3月			
東 京	総合	100.0	1.9	1.9	1.2	0.5	* 0.5	* 7.2	
	季節商品を除く総合 (季節商品)	91.9 (8.1)	1.5 (12.7)	0.9 (11.6)	0.2 (11.8)	0.2 (2.6)	* 0.7 (* - 0.5)	* 5.4 (* 27.3)	
	食料	40.1	2.1	3.7	2.9	0.9	* 0.8	* 8.3	
	住居	11.1	0.9	1.3	0.5	0.5	0.6	4.9	
	光熱費	4.2	2.4	2.6	0.2	1.6	0.2	17.3	
京	被服	12.4	5.9	- 2.1	- 2.2	- 0.5	- 0.4	4.8	
	雑費	32.2	0.9	1.3	0.9	0.1	* 0.6	* 6.4	
全 国	総合	100.0	1.6	...	0.9	0.9	...	8.0	
	季節商品を除く総合 (季節商品)	91.7 (8.3)	1.6 (3.9)	... (...)	0.0 (9.8)	0.4 (6.7)	... (...)	5.8 (31.8)	
	特殊 分類	農水畜産物	16.3	3.1	...	4.5	4.6	...	19.1
	工業製品	46.6	2.2	...	- 0.3	0.2	...	6.4	
	うち大企業性製品	21.4	1.9	...	0.3	1.3	...	8.9	
中小企業性製品	25.2	2.4	...	- 0.7	- 0.7	...	4.4		
サービス	33.6	0.7	...	0.9	0.2	...	5.8		

(注) 1. 総理府統計局調べ。
2. *印は速報。

紙、学習参考書、切花など雑費の上昇が目立った。なお、季節商品は春物野菜の出回りに伴う野菜の値下りを主因に4ヵ月ぶりに反落した。

◇長期資本収支は大幅流入超

2月の国際収支(季節調整前)をみると、輸出が季節的な落込みを示した前月の反動もあって大幅に増加したため、貿易収支(187百万ドルの赤字、前月同2,381百万ドル)、経常収支(1,276百万ドルの赤字、前月同3,374百万ドル)とも赤字幅を大幅に縮小した。また、長期資本収支は対日証券投資の流入高水準などから既往最高の流入超(1,294百万ドル、前月895百万ドル)となり、この結果、総合収支の赤字幅は840百万ドルと前月(同2,222百万ドル)比大幅に縮小した。

なお、2月の季節調整後の貿易収支は原油価格の高騰を主因とする輸入の増加から前月比赤字幅をやや拡大した(408百万ドルの赤字、前月同237

百万ドル)。

この間、外貨準備高は20,771百万ドルと小幅の減少となった(前月末比-243百万ドル)。

(輸出—増加)

2月の輸出(国際収支ベース、季節調整済み)は+6.3%と前月微減(-0.7%)のあと、再びかなりの増加となった(原計数の前年同月比は+22.8%)。品目別(通関ベース)にみると、自動車の前月減少の反動もあって大幅増加を示したほか、テレビ、合織(糸、織物)、化学製品等もかなりの増加となった。

なお、3月の輸出信用状接受高(季節調整済み)は前月大幅増加(+9.1%)の反動から-4.9%の減少となったが、1~3月通計では+6.5%と引き続き高い伸びを示した(54年10~12月+6.0%)。3月について品目別にみると、繊維製品、化学製品は増加したものの、鉄鋼、自動車、電気機械が前月大幅増加の反動から減少した。

国 際 収 支

(単位・百万ドル)

	54 年			54 年	55 年		前年 2 月
	4～6月	7～9月	10～12月	12 月	1 月	2 月	
経 常 収 支	△ 1,126	△ 3,229	△ 3,688	△ 308	△ 3,374	△ 1,276	262
貿易収支	1,523	△ 355	△ 1,013	662	△ 2,381	△ 187	1,088
輸 出	24,454	26,059	27,828	10,706	6,860	9,399	7,656
輸 入	22,931	26,414	28,841	10,044	9,241	9,586	6,568
貿易外収支	△ 2,399	△ 2,617	△ 2,402	△ 869	△ 898	△ 987	△ 767
移 転 収 支	△ 250	△ 257	△ 273	△ 101	△ 95	△ 102	△ 59
長期資本収支	△ 3,389	△ 1,877	△ 3,782	△ 655	895	1,294	△ 990
本邦資本	△ 4,121	△ 3,970	△ 3,549	△ 1,067	△ 432	△ 255	△ 1,020
外国資本	732	2,093	△ 233	412	1,327	1,549	30
基礎的収支	△ 4,515 (△ 4,121)	△ 5,106 (△ 5,754)	△ 7,470 (△ 8,070)	△ 963 (△ 1,995)	△ 2,479 (△ 335)	18 (△ 203)	△ 728 (△ 877)
短期資本収支	△ 324	1,268	1,169	123	498	186	118
誤差脱漏	740	117	762	328	△ 241	△ 1,044	85
総 合 収 支	△ 4,099	△ 3,721	△ 5,539	△ 512	△ 2,222	△ 840	△ 761
金融勘定	△ 4,099	△ 3,721	△ 5,539	△ 512	△ 2,222	△ 840	△ 761
外貨準備増減	△ 3,834	356	△ 5,008	161	687	△ 243	△ 422
その他	△ 265	△ 4,077	△ 531	△ 673	△ 2,909	△ 597	339
外貨準備高	24,979	25,335	20,327	20,327	21,014	20,771	32,687
為銀対外ポジション	△ 16,133	△ 19,865	△ 20,262	△ 20,262	△ 22,927	△ 23,650	△ 17,643

- (注) 1. 基礎的収支カッコ内は、貿易収支のみ季節調整した計数。
 2. 短期資本収支は金融勘定に属するものを含まない。
 3. 金融勘定の△印は純資産の減少。

輸 出 入 指 標 の 推 移

(季節調整済み、単位・百万ドル)

	国際収支ベース			通 関		輸 出	輸 出	輸入承認・
	輸 出	輸 入	貿易じり	輸 出	輸 入	信用状	認 証	届 出
54年 4～6月平均	8,230 (+ 1.9)	7,591 (+ 4.8)	639	8,373 (+ 1.5)	8,586 (+ 8.8)	6,307 (+ 7.2)	8,655 (+ 2.6)	8,839 (+ 7.9)
7～9 〃	8,601 (+ 4.5)	8,936 (+ 17.7)	△ 335	8,723 (+ 4.2)	9,814 (+ 14.3)	6,501 (+ 3.1)	9,057 (+ 4.6)	10,708 (+ 21.2)
10～12 〃	8,825 (+ 2.6)	9,362 (+ 4.8)	△ 537	8,929 (+ 2.4)	10,571 (+ 7.7)	6,892 (+ 6.0)	9,600 (+ 6.0)	11,283 (+ 5.4)
54 年 11 月	8,772 (+ 2.2)	9,532 (+ 5.2)	△ 760	8,856 (+ 0.9)	10,698 (+ 2.9)	6,794 (- 0.8)	9,389 (- 2.0)	11,153 (+ 0.5)
12 〃	9,123 (+ 4.0)	9,493 (- 0.4)	△ 370	9,157 (+ 3.4)	10,618 (- 0.8)	7,031 (+ 3.5)	9,834 (+ 4.7)	11,598 (+ 4.0)
55 年 1 月	9,063 (- 0.7)	9,300 (- 2.0)	△ 237	9,382 (+ 2.5)	10,606 (- 0.1)	7,038 (+ 0.1)	9,449 (- 3.9)	13,029 (+ 12.3)
2 〃	9,633 (+ 6.3)	10,041 (+ 8.0)	△ 408	10,127 (+ 7.9)	11,716 (+ 10.5)	7,680 (+ 9.1)	10,358 (+ 9.6)	13,805 (+ 6.0)

- (注) 1. カッコ内は対前期(月)比増減(一)率(%)。
 2. 輸出信用状接受高および輸入承認・届出額は、特殊大口を除く。

(輸入—増加)

2月の輸入(国際収支ベース、季節調整済み)は+8.0%と前月減少(-2.0%)のあと大幅に増加した。品目別(通関ベース)には鉄鉱石、原毛等が現地ストの影響から入着減となったものの、原油を

はじめ、非鉄金属鉱、木材等が前月減少の反動もあって増加した。

なお、3月の輸入承認・届出額(特殊大口除外、季節調整済み)前月比は、-7.3%と6か月ぶりに減少となった。